

本当に「アフターコロナ」か？

データサイエンティスト
松本 健太郎

データサイエンスとは、数学やプログラミングなどの理論を活用して、データ分析を行ない、有益な洞察を導き出すもので、コスト削減や業務効率化などに幅広く活用できます。今回は、コロナ禍の収束についてデータで読み解きます。

- 第1回 データ分析こそ大企業に勝てる「戦略」だ
- 第2回 問題・問い・仮説を完全にマスターせよ
- 第3回 本当に「アフターコロナ」か？
- 第4回 解像度を高める思考法①原因と結果
- 第5回 解像度を高める思考法②具体と抽象
- 第6回 観察力が分析の結果を左右する

結婚や出生数は元に戻ったのか？

2023年5月8日、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行し、「もはやコロナ禍ではない」と感じるかもしれません。

ただし、それはデータに基づかない主観です。

あれから1年弱。社会経済活動は「正常」に戻ったのでしょうか？ いくつかの指標をデータで読み解きます。

行動制限によって、婚姻数や出生数はどのような影響を受けたのでしょうか。2000～2022年における婚姻数をグラフ化してみました（図表1）。

2000～2019年の20年に及ぶ減少幅はおおよそ1万332組／年減、2010～2019年の10年に及ぶ減少幅はおおよそ1万1

374組／年減だとわかりました。緩やかに、婚姻数が減る傾きが大きくなっています。

そこへ来てのコロナ禍で、大幅に婚姻数が減少。2020年は52万5507組、2021年は50万1138組、2022年は50万4930組となりました。

過去の予測をベースに考えると、この3年間で何組の婚姻が失われた計算になるでしょうか。

2000～2019年予測線だと18万1796組、2010～2019年予測線だと16万1758組と試算できます。その数字はそのまま、出生数へ影響します。

ちなみに、2月2日に発表された厚生労働省人口動態調査では、2023年9月時点の累計婚姻数は35万4251組で、2023年は、50万組を割ることが現実視されています。

併せて、2000～2022年における出生数をグラフ化してみました（図表2）。

2000～2019年の20年に及ぶ減少幅はおおよそ1万3531人／年減、2010～2019年の10年に及ぶ減少幅はおおよそ2万561人／年減だとわかりました。これには2019年の出生数

が想定を大きく下回った影響もありそうです。

そこへ来てのコロナ禍で、大幅に出生数が減少。2020年は84万835人、2021年は81万1622人、2022年は77万747人となりました。

過去の予測をベースに考えると、この3年間で何人の出生が失われた計算になるでしょうか。

2000～2019年予測線だと26万9159人、2010～2019年予測線だと14万7521人と試算できます。

ちなみに、2月2日に発表された厚生労働省人口動態調査では、2023年9月時点の累計出生数は54万2924人で、2023年は、75万を割って71万～73万人と想定されています。

2019年の出生数は前年比マイナス5・79%の大幅減でした。もし仮に、2023年の出生数が72万だった場合は前年比マイナス6・68%で、過去最悪の減少率となります。新型コロナは、婚姻数を6万組ほど下方へ押し下げた事態を招いてしまいました。そして、それが影響して、2021年以降の出生数を押し下げる事態を招いてしまいました。

経済活動は 元に戻ったのか？

経済産業省が毎月発表している「第3次産業活動指数」は、第3次産業（サービス業）の生産活動を総合的に捉えることを目的とした統計で、コロナ禍前・コロナ禍後の変化を如実に表わしています。まずは、もつとも影響があつた

と言われる飲食店、宿泊業の推移を確認します（図表3）。

1回目の緊急事態宣言発出に伴い、指数がそれぞれ「飲食店、飲食サービス業」は60%減少、「宿泊業」は80%減少しています。2020年7月から始まった「GOTOキャンペーン」で復活の兆しを見せるものの、2回目、3回目の緊急事態宣言で再び指数が下降

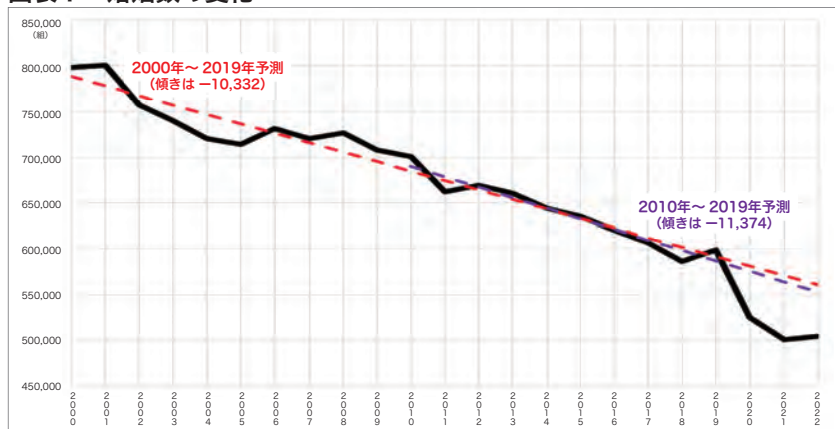
しました。その後、「宿泊業」は回復したものの「飲食店、飲食サービス業」はコロナ禍前にいまだ戻っていません。マスクを外しても、5類に移行しても、自粛不要で社会経済活動が制限されていない状況下でも、です。

そういう業種はほかにもあります。たとえば運輸業です。移動手段であるバス、タクシー、鉄道、

航空は、それぞれコロナ禍前の水準には戻せていません（図表4）。

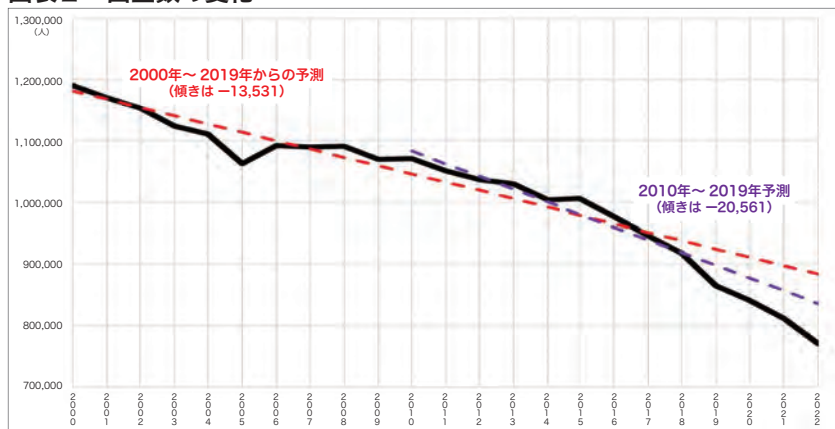
このように、社会経済活動がいまだに戻っていない領域が多数あることがわかりました。コロナ禍前の2019年12月の延長線上にない日常を私たちは歩んでいます。自粛は止めても、私たちの「心」が自粛したままなのだとデータからわかります。

図表1 婚姻数の変化



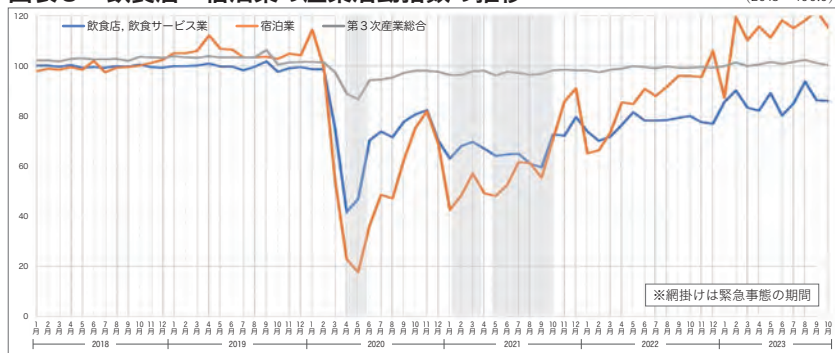
厚生労働省「人口動態調査」をもとに著者作成

図表2 出生数の変化



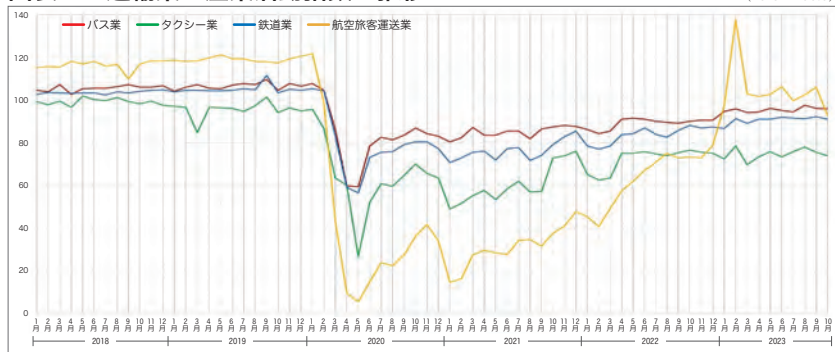
厚生労働省「人口動態調査」をもとに著者作成

図表3 飲食店・宿泊業の産業活動指数の推移



経済産業省「第3次産業活動指数」をもとに著者作成

図表4 運輸業の産業活動指数の推移



経済産業省「第3次産業活動指数」をもとに著者作成



まつもと けんたろう 法学部卒業後、データサイエンスの重要性を痛感し、多摩大学大学院で学び直し。現在はグロースXにて執行役員を務める。政治、経済、文化など、さまざまなデータをデジタル化し、分析することを得意としている。